

80年代後半を闘える 職場抵抗闘争を創造しよう

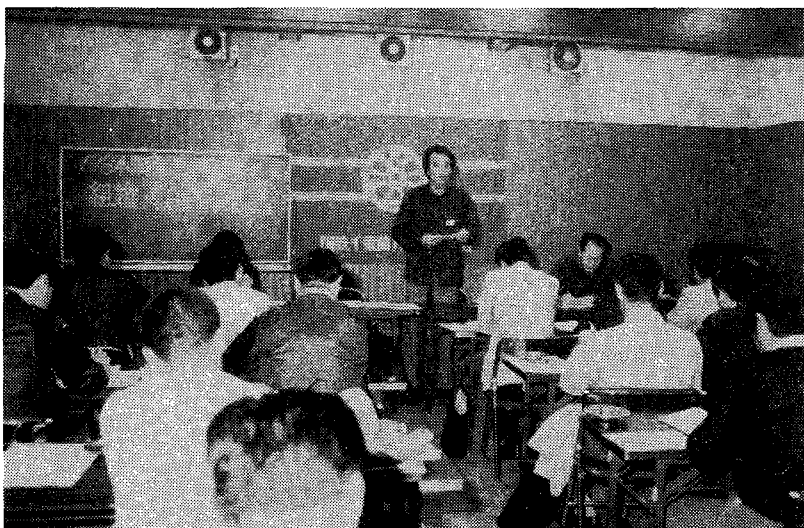
日刊 動労千葉

85. 5. 2

No. 1930

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七



基調を提起する片岡組織・教宣部長。

84年度組織・教宣部長 会議開催される

四月二六日、動力車会館において「一九八四年度組織・教宣部長会議」が開かれ、「分割・民営化」一十五万人首切りを中心とする国鉄労働運動解体攻撃を打ち破るための職場抵抗闘争の創造にむけ、組織・教宣活動の一層の強化をかちとる取り組みについて全体で確認した。

本部一支部一体となつて、組織・教宣活動の強化をかちとろう

会議は、全支部の組織・教宣担当者二〇名が出席し、冒頭、本部を代表して布施書記長より「60・3」ダイ改以降の「三本柱」「過員対策」、85

春闘をめぐる情勢が報告され、会議の獲得目標である「八〇年代後半の職場抵抗闘争の創造」にむけた真しな討論を要請した。つづいて、片岡組織・教宣部長より「組織強化・拡大に向けた取り組み」が提案された。

△当面する取り組み（要旨）▽

1. 日帝・中曽根体制の臨調一改革攻撃Ⅱ戦争のできる国家体制づくりの柱としての国鉄労働運動解体攻撃Ⅱ「分割・民営化」一十五万人首切り攻撃と対決し、八〇年代後半に通用する職場抵抗闘争の創造へむけての取り組みを強化する。
 - ① 「60・3ダイ改」阻止闘争で切り拓いた非協力・安全確認行動の継続・発展をかちとるために「60・3」移行に伴って生じている具体的問題点の調査と改善要求「動乗動協定」を労働者の立場から熟知し、闘いの武器に転化活用していくための学習・教育活動を強化する。
 - ② 「職場規律」攻撃を粉碎するため、カーテン・服装（ワッペン、ネクタイ）攻撃との闘いの意義を周知徹底させ、全力で組織化を図る。
2. 津田沼を焦点とする動労「本部」革マルによる謀略的組織破壊攻撃に対し、各支部に「謀略・弾圧対策班」を設置し、階級的警戒心をもって、本部・支部一体となった取り組みを強化する。

3. 国鉄労働運動の総屈服状況の中で「60・3」闘争、「3・24」三度目の三里塚五割闘員を実現し、組織力を発揮してきたが、さらに組織の強化・拡大にむけ、①支部執行委員会の月二回の定例化、②職場集会の月一回の定例化、をかちとる。
4. 教宣・教育活動の強化にむけ、「第二期・労働学校」を教育活動の中心にすえて成功をかちとるとともに、各種組合員教育を実施する。

職場支配権の圧倒的確立を！ —全員の発言で「取り組み」を確認—

以上の提起をうけて質疑討論が行われた。

出席者からは活発な意見が出され、特に、①「60・3」ダイ改阻止第一波闘争の非協力・安全確認行動について、新たな闘いを創り出す観点から闘いぬいたうえでの感想と意見、②「3・24三里塚」の五割闘員をはじめとする各種闘員を取り組むうえでの問題点、③「職場規律」攻撃の焦点となりつつあるワッペン闘争の状況、④政府・国鉄当局、反動勢力に対する紙の弾丸として闘う労働者の強力な武器となり、大きな役割を果たしている『日刊動労千葉』の配布一活用状況、ならびに紙面に対する意見、の四点について全員から発言をうけた。

会議は布施書記長より総活答弁をうけた後「組織強化・拡大にむけた取り組み」について全員の拍手で確認し「三本柱」「過員対策」「職場規律」をもってする当局側からの職場支配権「奪還」の攻撃に対し、組織・教宣活動の強化で打ち破っていく決意をうち固め、成功裡に終了した。